

コロナウイルスは、あつと言う間に世界中に蔓延して、人々を危険と恐怖の渦に巻き込みました。教育現場では、オンラインという最新アイテムで授業を行うことになりました。紙とチョークに慣れていた私は、四角い画面に向かって聴講してくれているであろう学生に対して、「効果的な授業とは」と日々問いかけながら、カーソルを動かしています。

「学生の心の変化」にも気づくことが多くなりました。十年くらい前に、おもしろいやり、という授業の一コマを載せました。学生に順番に質問をしていたのですが、ひとりの学生が何も言わずに立ったままでした。私は答えるよう促しましたが、学生は二三分立ったままでした。私が多まらず次の学生へ質問すると、立っていた学生はバツが悪そうに座りました。授業後その学生から、「先生の話を聞いていなかったけど、それを話すと先生に申し訳ないから」という答えが返ってきました。それは、私のために黙って立っていたのだと、それが

## 学生相談室

だより **116**

カウンセラー 白石まりも

私に對しての思いやりだと思っていたことが分かり驚きました。オンライン二年目の今年、対面で授業を受けていた学生が、次々と出席していれば分かる質問をしてきました。授業に出ていないのかと聞くと、オンラインで全部出席していた、と言います。その後で「でも、聞いていませんでした（だから分からない）」と平然

と言うのです。それが私に對しての「思いやり」なのだと思います。していることに愕然としました。

人と会わないことがどのような影響を与えるのかは、今後判明する事だと思えます。しかし、今現在、困っていたり、生きづらさを感じている学生は少なくないと思います。また、今後対面の授業となると、また様々な困りごとが起きてくるであろうことは想像に難くありません。そのようなときは、学生相談室を思い出してください。電話・メールでも受け付けております。ご家族もどうぞ気軽にご利用ください。